

防災マニュアル（事務所編）発災後の措置

「直後の初動対応」が被害拡大防止のために重要。発災時に最も必要な事は迅速な対応。時間が経過すればするほど被害もダメージも大きくなり、早期回復も困難
基本理念・基本動作により行動すること。完璧でなくても良い。柔軟に対応できる応用力が重要。（実際の現場ではマニュアルを見ている余裕がない）実戦的な行動規範

●避難等（身の安全確保）

- ・地震直後は、慌てて外に飛び出さず、テーブルや机の下に身を隠し、落下物から身を守る。
- ・揺れがおさまったら、ドアを開けて出口を確保する。

◎ 従業員の安否確認～発災直後は、電話やインターネットが不通になるので一斉安否確認メールの運用、災害伝言ダイヤル、携帯電話各社の災害用アプリの活用

- ・エレベーターは絶対に使用しない。（途中で停止し、閉じ込められます）
- ・職場内任務分担による対応～責任者の指示、班員としての任務遂行、稼働可能な社員の把握、総合調整班、職員対処班、施設対策班としての対応
- ・人的被害(社員、ドライバー、家族)、物的被害(建物、車両、燃料、電源、ガス、水道、通信、機材)の早期把握、情報収集
- ・電源、通信、ライフラインの確認、企業データの保護、危険区域の迅速な閉鎖化
- ・復旧作業～事業継続可能な人員確保が出来次第、復旧作業を開始、業務をリスト化し、優先順位の高い順に実行。心理面での配慮、過労などの二次被害防止

●初動対応フロー

運行管理者・拠点責任者が中心となり、各ドライバーや作業スタッフが「誰が・何を・いつ・どう伝えるか」を明確にしておく

例～

- ・ドライバーからの被災連絡は配車担当へ ・配車担当は運行管理者を通じ拠点責任者へ報告 ・責任者は荷主との対応協議等の役割行動順序をマニュアル化
- ・①避難 ②発災報告 ③安否確認 ④被害把握(建物、車両、道路) ⑤社内報告 ⑥社員招集 ⑦関係先への連絡 ⑧社内応援・支援体制整備 ⑨業務一時停止